

第9期旭川市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画における 特別養護老人ホームの整備について

- 1 第9期計画の整備方針
- 2 75歳以上の高齢者人口の推移・推計
- 3 特別養護老人ホームの利用状況
- 4 特別養護老人ホームの整備状況
- 5 第9期計画の整備方針案

長寿社会課 地域包括ケア推進係

1 第9期計画の整備方針

第9期旭川市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（令和6年度～令和8年度）から抜粋（110P）

2 施設・居住系サービスの整備方針

(1)特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）

寝たきりや認知症などで、常に介護が必要で自宅での生活が難しい方のための施設です。入所により、入浴・排せつ・食事などの介護、機能訓練、健康管理、療養上の世話などが受けられます。原則、要介護3以上の方を対象としています。

【入所状況】

90%以上の入所率で推移しており、令和5年（2023年）の空床数は107となっています。

時 点	施設数	定員	入所者数	空床数	入所率
平成31年	24	1,398	1,333	65	95.4%
令和2年			1,350	48	96.6%
令和3年	25	1,498	1,365	133	91.1%
令和4年			1,421	77	94.9%
令和5年			1,391	107	92.9%

各年4月1日

【待機者状況】

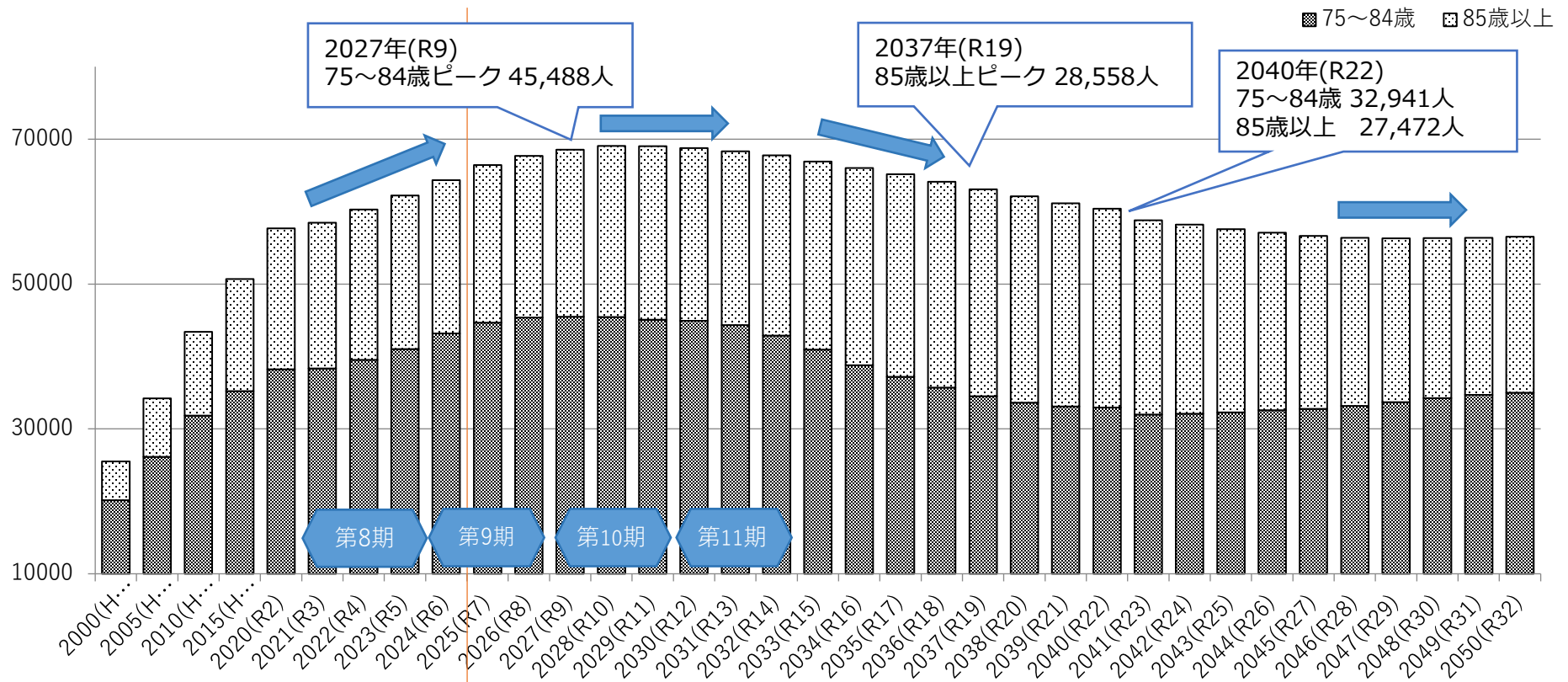
令和4年（2022年）の特別養護老人ホームの入所申込者状況調査によれば、調査時点では特に入所の必要性が高い要介護3以上の待機者数は市内で76人となっています。

【整備方針】

入所の必要性の高い申込者数は現在の空床数に収まるほか、今後の要介護認定者の増加を考慮しても、現在の定員の範囲内であることから、本計画においては現状を維持することとします。

2 75歳以上の高齢者人口の推移・推計

- ・ 75歳以上の人口は2028年（令和10年）まで増加を続け、その後緩やかに減少し、2040年（令和22年）には、2022年（令和4年）と同程度の人口となる。2045年（令和27年）以降はほぼ横ばいとなる
- ・ 75～84歳の人口は、2027年（令和9年）にピークを迎える。
- ・ 介護の必要性が高くなる85歳以上の人口は、2037年（令和19年）まで増加を続け、その後減少する。



今後の施設整備は、75歳・85歳以上の人口推移に注視しながら、将来的に人口が減少することを考慮し検討していく必要がある。

3 特別養護老人ホームの利用状況

■ 待機者数の推移

	H28.4.1	H31.4.1	R4.4.1	R7.4.1
要介護3以上の待機者	306人	260人	195人	92人
うち緊急性が高いと考えられる者	147人	122人	105人	50人
在宅者	106人	59人	53人	22人
医療機関入院者	41人	63人	52人	28人

(資料) 特別養護老人ホーム入所申込者状況調査

待機者数は減少傾向にあります。在宅者等の緊急性が高いと考えられる待機者も減少している。

【待機者が減少した理由として考えられる要因】

- ・ 特別養護老人ホームの整備が進んだ。
- ・ 高齢者人口の増加ペースが落ち込んだ。
- ・ 入所要件が、原則要介護3以上とされた。
- ・ 有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅などの様々な施設が整備され、住まい・施設の選択肢の多様化が進んだ。

■ 入居状況

	施設数	定員	入居人員	入居率	備考
H28.4.1	23	1,288	1,268	98.4%	
H29.4.1	23	1,318	1,282	97.3%	
H30.4.1	24	1,398	1,289	92.2%	ねむのきの華開設(80床)
H31.4.1	24	1,398	1,333	95.4%	
R2.4.1	24	1,398	1,350	96.6%	
R3.4.1	25	1,498	1,365	91.1%	エテルナ開設(100床)
R4.4.1	25	1,498	1,421	94.9%	
R5.4.1	25	1,498	1,391	92.9%	
R6.4.1	25	1,498	1,385	92.5%	
R7.4.1	25	1,498	1,402	93.6%	

(資料) 老人福祉施設入所状況及び要介護度別入所状況調査

施設を新しく整備した直後は、一時的な入居率の落ち込みがみられるが、90%以上の高い入居率を保っている。

R7.4.1の空床数 $1,498 - 1,402 = 96$ 床
R7.4.1待機者 92人

現状では、入所希望者に対して、床数が確保できている。
今後、75歳以上、85歳以上の人口が増加することが見込まれており、それとともに施設需要が高まることが見込まれる。

現状の待機者数・空床状況から、既存施設の定員数を維持することで、今後、増加が見込まれる施設需要にも対応可能と考えられる。

4 特別養護老人ホームの整備状況

■ 旭川市の特別養護老人ホームの整備状況

	制度 開始時	第1期 (H12-14)	第2期 (H15-17)	第3期 (H18-20)	第4期 (H21-23)	第5期 (H24-26)	第6期 (H27-29)	第7期 (H30-R2)
施設数	7	10	10	11	14	※23	24	25
定員	560	710	780	850	1,047	1,276	1,398	1,498
整備床数		150	70	70	197	229	122	100
内訳		(創設) 50床×3件	(増床) 20床×2件 30床×1件	(創設) 70床×1件	(創設) 70床×1件 100床×1件 27床×1件	(創設) 80床×1件 29床×1件 (増床) 30床×4件	(創設) 80床×1件 (増床) 10床×1件 30床×1件 2床×1件	(創設) 100床×1件

※特別養護老人ホームから同一建物内のユニット部分が別に指定を受けたため、実際の整備数よりも施設数が増加している。

建設からの年数が経過することにより、施設の老朽化や設備の劣化が進み、施設を維持していくためには、大規模な修繕工事により長寿命化を図る必要がある。

老朽化した施設の大規模修繕等に対する支援を検討

2 施設・居住系サービスの整備方針

(1)特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）

寝たきりや認知症などで、常に介護が必要で自宅での生活が難しい方のための施設です。入所により、入浴・排せつ・食事などの介護，機能訓練，健康管理，療養上の世話などが受けられます。原則，要介護3以上の方を対象としています。

【入所状況】

90%以上の入所率で推移しており，令和5年（2023年）の空床数は107となっています。

時 点	施設数	定員	入所者数	空床数	入所率
平成31年	24	1,398	1,333	65	95.4%
令和2年			1,350	48	96.6%
令和3年	25	1,498	1,365	133	91.1%
令和4年			1,421	77	94.9%
令和5年			1,391	107	92.9%

各年4月1日

【待機者状況】

令和4年（2022年）の特別養護老人ホームの入所申込者状況調査によれば，調査時点では特に入所の必要性が高い要介護3以上の待機者数は市内で76人となっています。

【整備方針】

入所の必要性の高い申込者数は現在の空床数に収まるほか，今後の要介護認定者の増加を考慮しても，現在の定員の範囲内であることから，本計画においては現状を維持することとします。

なお、上記の定員を維持するため、老朽化した既存施設の長寿命化を図る大規模修繕に対する支援を検討します。



追加部分